城

とん
とん
とん
アンナと
ベルは
つれていき
ますわ
じゃあ
ママン……

ごろごろ
小石

ラドクリフ
…ぼく
パパと
いる…
おまえ
わたしと
いてくれるのか
ラドクリフ
とん
とん
とん

ラドクリフ
手伝って
くれるの
かい

ぼくは
ぼんやり
道のはた

小鬼は
お城を
つくってる

夢はときどきあざやかだ
目覚めは悲しい
いつものように
なにが悲しい？何事もない
夏にはいちご冬にはだんろ
大好きなパパといつも一緒なのに
だけど
ラドクリフ
とんとんとん
わたしはおまえのために名門の学校を選んだのだよ
うんパパ…
パパは仕事で海外へ
でも…パパひとりでさみしくない？ぼく…
聞きわけのいい子がわたしは好きだよ
二年ぐらいすぐだ
ぼくは寄宿学校へ
とんとん……とん
──息子さんは？
今年11です

―五年前に離婚しまして―
男手ひとつで……
それは苦労でしたね
ええ 妻がわたしにおしつけていきましてね
あの子は神経質でわがままで
かなり扱いにくい子ですから……
とん……
なに? パパもママも
ぼくが要らなかったの? じゃまだったの?

いいつけは守ったし勉強だってしたし
パパの嫌う下町の子と遊んだりしなかったし
夏も冬も大好きなパパと
石ころごろごろ
ラドクリフよく勉強するんだよ
はいパパ…
ラドクリフ手伝ってくれないのかい
とんとん……

ここはさわがしい

知らない子ばかり

せーんせ！転入生がスープを飲みませーん

スプーンは汚い

まわり中ほこりっぽい

手すりもノブも机も

どうしたのきみ手ばかり洗ってるね

いくら洗っても手の汚れがおちないみたい

みんな汚い

ああ
やっと来たね！
さあ
はこんで
石を
お城をつくら
なけりゃね
お城…？
だれでも
つくらなきゃ
だれでも
自分の城をね
ああ
きみは
パパを
憎んでるね
どうして
きみが
拾ったのは
モンク石さ
さ
ここに
置いて
モンクの壁を
つくろう
ああ
きみは
学校キライ
だね
どう
して
これ
キライ
石
だもの
捨てちゃ
ダメダメ
本心だろ？
ぼく
ぼくパパを
きらっちゃ
いない！
ぼくが
悪いんだ
ぼくが病気
だから

学校は？
学校もキライじゃないの？

……パパがぼくのために選んでくれた学校だから好きにならなくちゃ……

きみはおくびょうだなあ

だってどうしろっていうのさ
ぼくはパパに好かれたい
モンク石もキライ石もいやだ！
いい子になりたい
いい子に！

完璧な人間になれたらどんなにいいだろう
こんにちはラドクリフ
──たとえば
今日から同じクラスだよ
ぼくはアダムよろしく
仲良くやろうね

オー！
だんまりの
チビが来た
こいつ
しゃべれんの？
こら
オシアン！
ウリウリ
ぼくは
上級クラスに
入ったけど
彼フランスに
住んでたんだよ
フランス語は
上手いもんさ
親切な
アダムに
くらべて
オシアン！
これは
なんだ
あァ
ギリシア語
で〜〜す
センセー
読めないいん
ですか
オシアンは
いちいち
つつかかる
ワルだ
この二人が
友人だなんて
信じられない
すみません
先生
かきなお
させます
ほら
オシアン！
へへーっ
おい チビ
知ってるか
この教室
オバケが
出るんだ
ぜ
おまえの
その机にな
病気で死んだ
子の……
キャアアア
スポッ
たたりが……
オシアン！
ぼくは
上級クラスに入って
手を洗うクセが
なくなった
ゲコ
でも
オシアンは
好きになれない

ラドクリフいる?
わー! アダム!
おとうさんからだよ よかったね
プレゼントだ!
みせろよ だんまり!
アダム またチェス教えてよ
アダムが だんまりに用だってさー!
くつだ!
はいてみろよ!
ガボガボのくつだ!
だんまりじゃなくてアヒルだ!
アヒル アヒル!
こら 静かに! みんな!
パパ くつをありがとう
足にぴったりです
いい先生ばかりで
友達もたくさんできました
寮長のアダムは親切で人気者です
ぼくたちは気が合います
親友になりました
大好きなパパへキスを
とん とん とん
ううん うそじゃない
みえっぱりじゃない
これはぼくの夢なんだ

くつは足にぴったりです
いい先生ばかりで
すげーいーかっこし
あのくつガボガボのくせに
まだあるぜ!
アダムと親友だってさ
……
わっ
ぼくのてがみっ
なんだよベッドの下におっことしてたくせにさァ
そんならおまえはうそつきだい
どっどっどろぼうっ
イー
うそつきうそつき
なにしてるんだ!
べー
ふん
ラドクリフ

ラドクリフ？
……
ぼく…ただ……
パパに…心配させないようにって……
…てがみ……
うん そうだよ ラドクリフ
夕食だから 学校に もどろうよ
きみの 手紙は ほんとうの ことだよねえ
ほら くつだって すぐ足に ぴったりに なるだ ろうし
ぼくたち 親友に なれば いいだろ？
ね？
……

アダムが
親友になってくれる
本当に？
それならぼくほんとにいい子になる
アダムにふさわしい人間になれるように
がんばる
アダム ラドクリフはどうかね？
ええ 彼とてもすなおな子ですよ
そうか きみにまかせてよかったよ
あたりまえのことですから
ぼくはみんなに仲良くしてほしいと思ってるんです
人間はもっとお互い理解しあわなけりゃね
けんかしたりいがみあったりばかげてると思うよ
うん そうだね アダム
ぼくがむっつのときリコンしたんだ
ぼくのパパとママね
それってリカイが足りなかったんだよね
そうだね 子どもはいつも身勝手な親の犠牲になるんだ
ぼくらは決してそんなおとなになってはならないんだよ
そしてまたそういうおとなを許すことも大切だと思うね
ユルス……
そ… そうだね アダム

よー
アヒル
来てたんか！
パカ
オシアン
アヒルじゃなく
フンだよな
おまえは
キンギョの
フン！
くい
キンギョの
フン！
それ
ぼくの…
うぷー！
いくつ砂糖
入れてんだ
よく飲むよ
こんなの
オシアン きみ
キャルガリ先生の
レポートだした？
レポート！
オレあの
センコー
でえきれェ！
人種的偏見
もってやがる
もンな！
ポロ
パサ
オシアン
きみ こんなもの
まだ
吸ってるのか
やめたって
いってただろう
？
やめたよ
入れてた
だけだよ
吸ってないって
アダム ほんと

ぼくが捨てておくよ レポートやるんだよ
……はーい
いやそーにするなよ
手伝ってあげるからね ラドクリフ きみも
フランス語得意だろ？
……
なんでぼくが
ぼく オシアン きらいだ！
どーして あんなのと友達でいるの アダム
あいつ不良だよ
ボート小屋かどっかでタバコ吸ってるにきまってる
ラドクリフ
きみ……って 人種的偏見があるんだね
は？
ジンシュテキ……？
きみがそういうつもりなら手伝ってくれなくていいんだ
おこらせた
ごめん アダム！
ぼく そんな……
ごめん アダム
ラドクリフ わかってくれたならいいんだよ
だれだって まちがうときは あるものね
そりゃ オシアンは ギリシア人だけど いいやつだよ
そもそも悪人って いやしない
そう思わないかい？
うん……

オシアンはギリシア人だったのかあ
どうでもいいけど彼はワルだ
だけどアダムはいい人間だからオシアンをかまってやってんだ“いいやつ”だなんてね

アダムは立派だ
とん とん とん
石を積んで城をつくるとしたら
アダムのはきっと
とん とん とん

まっ白い……

いいなあ ぼくもあんなふうになりたい
立派で欠点がなくてみんなに好かれて……
近よってお城のうらがわをごらん

うらがわ?
うらがわは……
あれ くずれてる……?

どうして? アダムは完璧なはずだ!
そいつ神様かい?
こんなあながあいてるはずないよ!

ふんふん これは あんたの見る アダム像さ
黒い石を 積んでない
キライ石も モンク石も
イジケ石も シット石も 転がって
そんな 汚い石 アダムには いらないよ!
お城をつくる 石の数は きまってる 白と黒と 半分ずつ
白い石を もってくれれば いいじゃないか!
そんなの だれが きめたんだ?
彼ら 自身が

オシアンの城だよ

黒い城だ！
オシアンにぴったりだよ！

うらがわをごらんよ
………

こんなに内面がまっ白ではきずつかざるをえないだろう

彼は本当はいい人間だってこと？見た目が悪いってこと？
きみの見方も極端だがね

ぼくが病気だからかたよった見方をしてるっていうのかい？

ラドクリフ

ぼく悪い子になるくらいなら死んだほうがいい

ふう

とんとんとん

とにかく
──
レポートは
完成した
キャルガリ先生ちは
川向こうの
家だよ
ザ
わざわざ
とどけんの
ォ
おくれてるんだから
早いほうが
いいよ
おーい
どいてーーっ
メディーナ！

ありがとう
キャルガリ先生!
おおアダム
あらあなたの生徒さんなの
やだスカートがジョン
優等生のアダムねジョンがいつもほめてる
ああ…あなたがオシアンね!
すぐわかったわエキゾチックね
ふん!
ふんだって？女の人に……
ぼくたちレポートもってきたんです
オ
家すぐそこよよってらして
ぼくたちはお茶をごちそうになつたけど
オシアンが失礼なもんでアダムは場をとりもつのに苦労してた
ふふんふん

人の家で あんな態度は ないよ オシアン
行こうって いったのは オレじゃ ないぜ！

あの すけべーじじい いつのまに 結婚したんだろ
二十は 年が ちがうぜ
よせよ 人の プライバシー を
ンね〜 ア〜タ〜ン

スカートが やぶれちゃった〜〜ン いたい〜〜〜ン
オシ アン！
ふん
こいつの内部に 無垢の壁が あろうが
メディーナ どこがいたい？ ここか？
うぐぐ
アハーン
ぼくは オシアンは キライだ！

それから 数日後の ことだった

あれ？ 先生の 奥さんの 自転車だ

それは 川のそばの 古い ボート小屋

クスクス クス クス
クスクス クスクスッ
それ ほんとに?
——ぼく い 言わないほうが よかったかな だけど どうして いいか わかんなくて
——信じられない ………!
ラドクリフ ぼくが なんとかする からだれにも 言うんじゃ ないよ たのむね
うん アダム

なんとかするってこんどは
タバコのように捨てるだけじゃすまないぞ
これでアダムはぼくのものだ
おまえはどういう人間なんだいラドクリフ
あこがれの白いアダムの城のように
良い完全な人間になることが望みだったのではないかい
おまえのやってることはいったいなんだい
ちがう
ちがう
オシアンが悪いことをしてるから正しい道にもどしてやるんだ
オシアンのやってることにくらべたら
ぼくがアダムの関心を引きたいぐらいの打算なんか
悪いうちにはいらない
そうだろうそうだろう?
ふんふん
打算は悪くも良くもない
ごまかしが問題さ
ごまかしているとわけがわからなくなり
ものが見えなくなるからね……
……
とんとん
とん

じょーだんじゃねえよっ
だれが言ったんだだれが見たって
でも……ラドクリフがそう言うんだ
じゃあうそなのか？
知るか！
オシアン！
このチクリ野郎！デバガメ！
わ
人のあとつけやがったな
オシアン！
ラドクリフはきみのことを心配したから
おれの心配？ケッ！
ぼくらの気持ちも考えてくれ心をいれかえて
奥さんは先生なぞヘッとも思ってやしねーさ！
あの奥さんにだって罪を犯させちゃいけない
愛情のない結婚のほうが罪じゃねーか！

好きでもないじじいと一緒になってさ
オレのほうがずっと本気だ！いっぱしのくちきくなガキ！

オシアンきみが冷静になれないならぼくから奥さんに忠告するよ

ギロ

彼はどうかしてる恋愛するなとは言わないよ
女の子を好きになるにしてもふつうの女の子でいいじゃないか
わざわざ先生の奥さんを……

オシアンは不良なんだなにを言ってもムダだよ
いや説得してみるもいちど
彼だって罪なことをしてると思ってるはずだ

ぼくはつらいぼくの友人がこんなことに……

翌日から雨になつた

オシアンはアダムを無視し逃げ回っていた
オシアンを見なかった？今日は朝からいないんだよ
朝からずっと？
まさか……
またボート小屋……
パチャ
パチャ
オシアン！

うわーーっ
オ
オシアン！
こっこっ
ころし
こっ
はなすんだ
追っかけ
なきゃ
まて！
オシアーン！
逃げちゃ
いけなーい
きみは
殺す気
じゃ
なかった
自首
して…

だめだ
だめだ
だめ
こんな
つもりじゃ
こんな
つもりじゃ
ぼくは
こんな結末を
考えてたんじゃない
う……う

ちょうど
川にワナを
かけにきていた
農場の人が
見てて
濁流に
とびこんだ

この人が
いなかったら
オシアンは
流されて
死んでた
だろう

オシアンは
そのまま
市の病院に
入院した

この件は
雨の日の
事故だと
いうことで
すまされた
奥さんの名も
学校の話題には
のぼらず
ぼくは
少し
かぜをひいた

その雨の日から
半月もたって
入院中の
オシアンから
ぼくに
手紙が
きた

ラドクリフ!
オシアンから
手紙が?

うん
なんて
?
ぼくは病院に
手紙を出したん
だけど
返事こないし

……
これ
中に
封筒が
入ってた
ことづて
なんだ

メディーナに
わたして
くれって
……
……

オシアンから手紙をあずかったって?
どうしてその手紙をうけとるのですかオシアンはあなたを殺そうとしたんですよ
ええ……これ…
メディーナさん
……わたしはオシアンをうらぎったの
わたし彼と一緒に行けない
だからせめて彼の手紙をうけとるの
アダム
アダムやめて
なぜ!
ヒラッ
先生にすまないとは思わないのですか
思うわ
あなたは先生をこそうらぎってるんですよ!
ぼくは正しいことを言ってるんだこの人に反省してほしいんだ

恋したことないのね
あきれた! あれじゃ先生がかわいそうだ
あ あんなのって!
ぼくには彼女のお城が見える
黒い石も白い石もみがかれて
迷いの果ての
愛のしつくいでつみ重ねられた
風の城

オシアンは
ギリシアに
帰ったと
うわさが
つたわる
ころ

キャルガリ
先生も
若い奥さんを
つれて
遠い地方に
転校して
しまった

元気よ
ママ去年
再婚したの

……シルバード（パパ）
からね
あなたを学校に
入れたって聞いて……

どう
学校
楽しい？

でも
どうして
突然
来たんだろう

……うっ！

ママ！

……

どうしたんだろう
何か困ったことが
あって
ぼくの助けを
かりに来たんだ
だろうか

あのとき
……

ママってば
どうしたの

だとしたら
パパが
ぼくを捨てた
ときのために
ママに
とりいって
おかなく
ちゃ

おまえを
おいてった
けど

三人も
育てる
自信が
なくて……

プチフラワー 1983年9月号に掲載